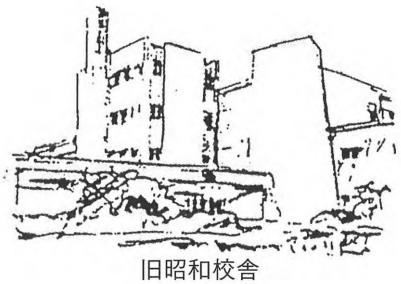
君が代は
千代に　八千代に
さざれ石の
巌となりて
苔のむすまで


旧昭和校舎

一
大空の　星の王座に
衆星を総ぶる北辰
其の影を理想と仰ぎ
大日本北の固めと
生立ちし　我等千余の
学びの子　務め重し

二
水清き　巴港に集ふ
百船を眼下に見つつ
そそり立つ臥牛の山の
姿こそ我等の抱負
百四十年の　古き歴史に
学舎の　誉高し

三
芳しき　名も五稜郭
朝夕に偲ぶ遺烈に
たゆまざる心をきたへ
海山に満つる宝を
この手もて　いざや拓かん
我等こそ　平和の戦士

四
行手さす　不断の光
大空に影は尊し
見よや此の双の腕を
商会の王者と立ちて
日の本の　富の基を
築くべき　力あふる

（昭和４年６月制定）

校　歌

青木存義 作詞
信時　潔 作曲

